

技術開発に努め、社会の発展に欠かせない さまざまなものづくりを支えています。

新しい価値を創造し、お客様にこれを提案し、新たな事業としていくうえで、研究開発の重要性が一層増しています。これまで、お客様のニーズに応えるため、評価・分析を含めたコア技術を深化させてきました。これからもさまざまな用途分野に応用できるコア技術をお客様のニーズに調和させ、ものづくりを支えるとともに、新技術・新機能への基礎研究や新規事業への技術開発を行っていきます。

3つのコア技術

「3つのコア技術」の総合力として当社の製品体系は成り立っています。

■ 有機無機合成・顔料処理技術

顔料合成は化学物質、化学結合の発色理論を中心に、物理化学や界面化学の知識を総合的に駆使する技術分野です。

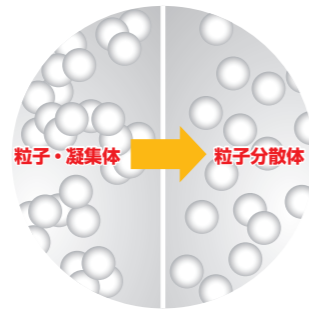
着色という観点の分散性や発色性の改良だけではなく、顔料表面を化学処理して、液晶パネルのカラーフィルター用顔料など、特殊機能を付与する技術を持っています。



■ 分散・加工技術

水や油に溶けない顔料を対象素材に安定分散させるには、多くのノウハウが必要です。当社はあらゆる素材に対応する幅広い分散・加工技術を持っています。

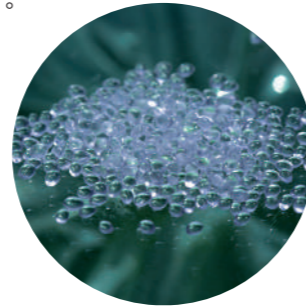
この分散・加工技術を着色だけでなく、導電、難燃、強度などの機能付加に応用し、機能性付与材料を提供しています。



■ 樹脂合成技術

ウレタン樹脂やイミド系樹脂、アクリル樹脂、天然由来高分子など、原料を知り尽くし、目標性能に合わせる樹脂設計・樹脂合成技術を持っています。

この技術を活かして最終製品まで一貫生産できることこそが、顧客ニーズにマッチした差別化製品を提供できる強みです。



発展分野の研究開発に注力

お客様のニーズに合った製品を適時に供給すると同時に、継続的な成長の促進のためにも、長期的な視点から、発展分野と想定できる「4つの重点分野」に対して資金と人材を投入し、「3つの指標」を中心軸に据えて、研究開発を進めます。

発展分野と想定できる「4つの重点分野」

1 環境分野

VOC 低減可能な材料やバイオマスを活用した材料の開発に注力します

2 エネルギー分野

省エネルギーや蓄エネルギーに寄与する材料の開発に注力します

3 パーソナルケア分野

生活に彩りや快適さを与える化粧品や医療機器用材料の開発を進めます

4 IT・エレクトロニクス分野

情報社会の発展に寄与する情報表示・記録用材料の開発に注力します

「3つの指標」保有技術の棚卸から当社が進める研究開発の中心概念

環境調和、ESG・SDGsに向けた製品開発

- ◎環境負荷の少ない製品やフードロスに寄与する製品の研究開発
- ◎軽量化や電池などの部材を通した省エネルギーなどに寄与する製品の研究開発

- CO₂を原料とするウレタン樹脂 1 2 3 4
- 生分解性微粒子 1 2 3 4
- 化粧品用材料 1 2 3 4
- バイオマス由来製品 1 2 3 4
- 水性製品 1 2 3 4

技術を融合してお客様のニーズに 応える新しい価値を提供します。

当社の研究開発は事業部の「お客様のニーズに沿った開発」とR&D部門の「シーズ」の両輪で進めています。その根幹には3つのコア技術を、社内のみならず、研究機関などと共同で進めるオープン・イノベーションを通して進化・蓄積を行ってきました。

昨年度から進めてきた要素技術の棚卸とMOT*による成果の一端として、今年度は素材そのものの機能を活かす意味で使用していた「ファンクション・テクノロジー」から、「環境調和、ESG・SDGsに向けた製品開発」「高機能材料の開発」「基礎研究」を今後の研究開発の中心概念と位置づけ、より具体的に方向づけました。いずれのものも「社会課題の解決」を目指すものであり、それぞれが当社の重点ターゲットに結び付くものです。

社会が抱える課題の解決は、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値を創出することと同

一のものと考えています。この目的を達成するために、コア技術をさらに深化させ、社外の異分野技術とのコミュニケーション、すなわちオープン・イノベーションを積極的に取り入れ、より付加価値の高い新製品や新規事業の早期創出を図っていきます。

※MOT(Management of Technology):技術を事業の核とする企業が、持続的な成長のために、技術成果を事業と結び付け、企業価値を創出していくマネジメント。



常務取締役 技術機構総括 小城 義尚

